



# エル・エンジェルボランティア便り

発行所

NP0 エル・エンジェル国際ボランティア協会  
〒243-0406

神奈川県海老名市国分北二丁目17番16号

tel 046-236-0001 fax046-236-0002

<http://www.l-angel.org/>

## 生徒招聘

迎えるにあたって

エル・エンジェル校生徒を迎えるにあたり、単なる日本観光に終らせるのではなく、彼らに日本の文化を知ってもらい、戦争の悲惨さを学び、またより広い知識を得て世界に貢献できる人になってもらいたいというエル・エンジェル校の精神に基づき生徒達の招聘準備を進めてきました。今回、日本のマナーを学び、日本語の勉強、コミュニケーションをとるため若い人々が生徒用、ボランティア用の二種類の会話を作成しました。下見担当者は現地を二度も下調べをしました。また、体調を気遣い食事や水、救急箱、おやつを手配する人。滞在中の身の回りを心配し、寄付して頂いたバザーの商品の中から新品のTシャツやバジヤマを用意する人、ホテルやチケットを安く手配する人。お土産の品物を持ち寄る人々。ホームステイを申し出てくれた方々。たくさんの方々々が細部に渡り、気配りをして下さり、事故も無く日本を学んで頂けるように皆で心ひとつにしました。

彼らに日本で一番見て、感じて頂きたいのは、やはり原爆ドームです。次に一つでも多くの日本の技術を学んで頂きたいという私達の思いを持ち寄り、悩み考え、科学未来館を中心に計画を立てました。

彼らの日本滞在中の学びがネパール国、さらに世界の発展に大きな役割になってくれること。また、毎年実施予定の日本招聘がエル・エンジェル校の後に続く下級生に、勉強やその他の面で良い励みとなっていく事を願ってやみません。

広島 一・二日目

広島のボランティアの皆様が新幹線ホームまで出迎えて下さり夜は、歓迎会を開いてくださいました。翌日は、早朝より六千羽の折鶴をたずさえて平和記念公園をご案内下さったり陽射しの強い中、飲み物を気遣ってくださいたりと、お心のこもった歓迎に到着早々のネパールの人々たちもジンときていくように感じました。中国新聞の記者様より丁寧なインタビューを受け、先生も、生徒も緊張。戦争から平和、そこにあった復興の努力・・・広島に来てたくさんのお話を学ぶことが出来たことでした。

さすが広島のボランティアパワーはすばらしい！  
感動させていただきました。

原爆の子の像の前で、被爆からの復興に思いをはせる生徒と教頭（左から4人目）



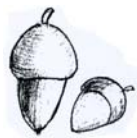
学校から招いた。

生徒は男子二人、女子二人で十七歳。原爆資料館では、肌が焼けただれた被爆者の写真に接し、衝撃を受けた。原爆の子の像も巡り、NP0法人の関係者が作った折り鶴六千羽をささげた。

## ネパールの生徒ら被爆や復興を学ぶ

### 平和公園訪問

ネパールの高校生四人と教職員二人が十七日、広島市中区の平和記念公園を訪れた。神奈川県海老名市の特定非営利活動法人(NPO法人)が、現地ポカラ市で建設・運営する



NP0法人は「エル・エンジェル国際ボランティア協会」。現地の学校には六、二十歳前後の約四百五十人が通う。日本には成績優秀者を招いた。ラテシュ・ポカレール君(17)は「広島はひどく破壊されたのに、ここまで復興したなんて」と驚いていた。四人は十六日に広島に着いた。十七日午後東京へ向い、学校や工場を見学して二十三日に帰国する。

## ドリームの世界で

デイズニールランド

生徒達が楽しみにしているだろうデイズニールランドです。朝一番から夜のパレード、最後の花火までそして今回は特別おまけ、最後のハローウィーンパレードまで十二時間三十分。Aさんの案内でなんと十四回も乗せてあげることができました。生徒達はスリルのあるのが大好きでボランティアが怖いから辞退との声が上がっても平気で、ボランティアが意を決して乗る場面も度々です。休憩も食事もないという位のハリキリです。デイズニールランドは別世界・夢の世界です。ミッキーや他のキャラクターと一緒に写真におさまったり、見るもの、見るもの写真をとっていました。

中国新聞朝刊より (9月18日)





夜のパレードもきれいで初めての来日の教頭先生は「ドリームだ」とつぶやいていました。

ネパールの人たちにとっては楽しい一日であったかと思えます。ボランティアのAさん、朝早くから遅くまで軽やかに歩き、みんなを引っ張って下さりどんなにかお疲れでしたでしょう。明日は又六時起きです。

ネパールから来た人々にとってドイツ・ポーランドのような文化は母国にあって必要だろうか、否か、考える子があつたかもしれません。また考えてほしいと思えました。

次号科学未来館をお伝えします。

## 孤児院より

「もつたいたい」の心

二年前、インド・モダパラサに孤児院を開所し、その記念に日本の七段飾りの雛人形を届け、次訪れた時も部屋に飾られてあり、とても嬉しく思っておりました。

ここに来て、子供たちは埃などで汚れたのが気になり、このままでは人形が傷んでいく「もつたいたい」との声が上がり、人形を飾るケースを作ったとのこと。

ラクシユミさん（16才）はとても頑張り屋で勉強も好きとのこと。進学を希望していますが、もう少しのところで合格ができませんでした。一時、進学を諦めました。が、せつかく孤児院に入れ、進学しても良いといつてもらいとてもありがたい。せつかくのチャンスを投稿出しては「もつたいたい」と思うのもう一度頑張ります。」



と今、猛勉強中とのこと。

物やチャンスを大切に。「もつたいたい」の心、が育まれている。このことは孤児をご支援くださる皆様のお心をごんごにか嬉しく飾ってくれる便りかと思いつながら、お伝え申し上げます。日ごろ、薄いご報告で申し訳ないことですが、子ども達の成長を長い目で見てくださいますよう今後ともよろしくお願い申し上げます。

## 病氣治療・その後

ナヤガン村

昨年十一月訪問の折、誰の目にも緊急治療を要すると思われた病氣の子3名、その中で2名の子は完治し、背中にこぶのあつた子は手術も無事終え今も投薬治療を続けています。

あのまま放置すると確実に死に至った命でした。成功率50パーセントといわれた手術でしたが助かりました。術後の写真が届きました。あの日の「さあ、どうする。私の愛する者たち」。この御言葉を真摯にこころに刻まれ、エル・エンジェルをご支援くださる方によって一つの命が助かりました。命の重みをお受け取りください。

## 心のサポート事業

町田市

4月からの再開で好評をいただいております『障がい児・者を抱える家族への内観療法による心のサポート事業』で、毎月第1日曜日、父母に内観をしていただき、「母親からお世話になったこと」を調べていただきます。

「夏休みに九州の実家に帰った時、父は自分の病氣の事よりも、私達家族の事をまだまだ心配しているのだと思いました。母もまた同じようでした。最近特に両親へ感謝の気持ちがとても大きくなりました。毎回、内観で貴重な時間を持たせてもらっていると感謝しています。」と感想文をいただきました。外出活動の障がい児・者と兄弟は日頃できない社会体験をするため7月は横浜の「三菱みなとみらい技術館」、8月は夏休みの思い出作りで辻堂の海浜公園内の「交通公園」・「交通展示館」へ朝からでかけ、9月は町田で「ブルーベリー狩り」を楽しみました。医療ケアが必要なお子さんには看護師が付き添い、幼い兄弟と室内で造形講師の指導で造形・プロの音楽家の歌声を楽しみました。

## 音の調べ

現在、妊娠六ヶ月のYさん。彼女は音楽家、素敵な声の持ち主だ。

彼女に是非とも歌っていただきたいとお願いをし、童謡を歌って頂くことに。

「ぞーさん・ぞーさん」彼女が歌を歌い始める、きれいなソプラノ、澄みわたり、響きわたる歌声。部屋の空気が変わる、山の溪谷にいるかのよう、清々しい空気に変わるそして、三歳の男の子は、とっても元気よくおしゃべりをし、オモチャで遊んでいたのに、彼女の歌が始まった途端にすべての動きをやめ、歌っている彼女を凝視した。好奇の目をキラキラさせながら、うつとりとしながら彼女を見つめ、聴きほれていた。

歌い終わると、ニコッと笑い、次の曲をリクエストしていた。

そんな小さな王子のリクエストに答え、また彼女が歌ってくれた。

小さなお王子のお兄ちゃん・お姉ちゃんも穏やかに過ごし始める。

彼女の歌声は、天使の声のようだ。

音の調べに乗せ、静かな温かい空間に一瞬にして変える。それはもちろん彼女の心ある歌声だからだ。彼女の心が、彼女の声になり、音の調べに乗せ伝わっていく・・・道具は何一ついらな

い。彼女の清らかな心、それが全て。

情報やものが溢れている時代に、本当に心を動かすものが、何であるかと教えていただけただけの町田サポート会場の貴重な時間だった。